

白馬だより

泉州労山・大町労山 鈴木 均

毎年気になる紅葉の色だが、今年はどうだろうか。まだ報道はないが、今日現在、乗鞍の情報では、昨年より3日、例年より10日遅いということだ。

22日に白馬岳に登り（クレバスができているので、秋はほとんど大雪溪を通らない）、翌日富山県側祖母谷に下った。そのときの印象では、ここ1、2年前よりは色づきは良いのではないかと感じた。その理由は、とくに昨年ひどかったナナカマドのカーリングで、赤くならないままくすんでしまったのをよく見たのに、祖母谷上部で見たのは赤くなる前のオレンジ色の葉がすっと伸びていたからだ。あと1週間もすれば赤く輝いたナナカマドが見られるのではないかと期待が持てた。（中腹のブナはまだまだ緑のままだ。）

それにしても白馬山頂から祖母谷は長かった。朝5時半に村営小屋（村民割引がある）をスタートして祖母谷温泉に着いたのは午後3時半前。ほぼ10時間だ。村営小屋を出てからルートを間違えて30分以上ロスしたことで、不帰の避難小屋で15分ほど休憩したので、行程を9時間と計算していたのが1時間オーバーしてしまった。途中下山者には一人も会わず、登ってきたのは中年夫婦と単独の女性の3人だけだった。白馬岳周辺の賑わいとは大きな違いだ。超ロングコースを上る登山者は、よほどの物好きかもしれない。

祖母谷温泉の露天風呂に入って汗を流し、さらに40分歩いてようやく樺平へ。阿曾原温泉までの水平道も16日に開通したばかりで、黒部ダムまでの下廊下は残雪と崩壊で、まだ開通の見通しが立っていないとのことだった。

まもなく10月を迎え、これからがいよいよ紅葉シーズンに入る。この夏は本当に天候に恵まれず、山も観光地も入りがやや少なかったようだが、遭難は多かった。印象的には、30歳代と70歳くらいの登山者の遭難報道が目立っていた。一時期の中高年登山者が減って二極化しているのだろうか。

そろそろ冬に備えなくてはならない。この夏、1週間かけて除雪機小屋を一人で造った。屋根雪に持ちこたえられるように、しっかり作ったつもりで、まずまずの出来ばえだと自己満足しているが、しょせん素人大工。さて、今年の雪に耐えられるだろうか。（9月24日記）

